

コミュニティ・ミュージックの

いま、

そしてこれから

題字：きし本こう太

2021
後期

コミュニティ・ミュージックの これからの考えるシンポジウム

オンライン

本企画の2021年前期講座では、コミュニティ・ミュージックの現状について各講師によって紹介していただきました。それを受け、後期のミニコンサートとシンポジウムでは、「うたの住む家プロジェクト」を話題の出発点として、日本におけるコミュニティ・ミュージックの役割、今後の展開について考えていきます。

2022年 13:00～13:30 うたの住む家ミニコンサート
1月9日(日) 13:45～15:00 シンポジウム
15:10～16:00 フロアを交えた座談会

■うたの住む家ミニコンサート

うたの住む家ワークショップ
参加者の皆さん

即興からめーる団

赤羽美希(音楽家) + 正木恵子(打楽器奏者)

■シンポジウム登壇者

井上勢津 (ノルウェー政府認定音楽療法士、東京音楽大学・東邦大学非常勤講師)

塩原麻里 (元国立音楽大学教授、
ISME・コミュニティ音楽コミッションメンバー(2010~16、共同議長14~16))

沼田里衣 (大阪市立大学文学研究科准教授、音楽魔法士)

即興からめーる団 赤羽美希(音楽家) + 正木恵子(打楽器奏者)

司会 鐘ヶ江織代 (リサーチャー・コーディネーター、「パレイドリアン」主宰)

参加方法

1.ミニコンサートとシンポジウムに参加する

Peatixよりご参加下さい。(要申込。12:30より入室できます)

参加料金 1,000円

お申し込み Peatix <http://ptix.at/1Qczj0>

※本イベントはZOOMを用いたオンラインコンサート、シンポジウムです。

イベントの期日までに申し込みください。

お申し込みいただいた方は、1月31日までアーカイブもご覧いただけます。

2.ミニコンサートのみ視聴する

YouTubeのライブ配信をご覧ください。

視聴無料(申込不要) <https://youtu.be/cutPhenJvll>



主催：一般社団法人もんてん(両国門天ホール)

<http://www.monten.jp/CM2021>

共催：即興からめーる団、うたの住む家実行委員会

協力：パレイドリアン

助成：すみだ文化芸術活動助成金

公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京

ARTS COUNCIL TOKYO

門天
since 1989
Ryogoku Monten Hall

コミュニティ・ミュージックのいま、そしてこれから

2021
後期

うたの住む家ミニコンサート

ワークショップに参加した皆さんとつくったオリジナルのうたを紹介するミニコンサート。

即興からめーる団と参加者がZOOMを使って各家庭からコンサートに出演します。

これまで作りためたうたの紹介やオンラインワークショップの様子などお話ししながら進めていきます。

出演：うたの住む家ワークショップ参加者の皆さん、即興からめーる団(赤羽美希+正木恵子)



シンポジウム登壇者による話題提供

うたの住む家の実践を踏まえて、本企画前期の講座を担当した講師と即興からめーる団が、日本におけるコミュニティ・ミュージックの役割や今後の展開について考えていきます。

座談会

フロアの皆さまを交えて、講師の方々とコミュニティ・ミュージックについて語り合う場を設けます。

塩原麻里

元国立音楽大学、東京学芸大学教授。国立音楽大学教育音楽科第II類卒業後に、ロンドン・ダルクローズ・スクールでリトミック国際ライセンス、ロンドン大学教育研究所(現ユニバーシティカレッジ・IOE)において音楽教育学修士・博士を取得。専門は音楽と動き、日英音楽教育比較。2018年から2020年まで、国際音楽教育協会(ISME)の理事を務める。コミュニティ音楽に関する編著にCommunity Music Today (Rowman & Littlefield Publishers), Community Music in Oceania: Many voices, one horizon (University of Hawaii Press) 等がある。他論文等多数。



井上勢津

学習院大学文学部哲学科卒業。東京音楽大学(声楽専攻)を経て、北欧歌曲の研究のため、ノルウェー国立音楽大学へ留学。その後、主専攻を音楽療法へと移し、ソグン・オグ・フィヨルダネ大学音楽療法コース、ベルゲン大学修士課程(音楽療法)を修了。現在、ノルウェー政府認定音楽療法士として、東京を中心に音楽療法活動を行う一方、日本とノルウェーを結ぶ文化活動を展開している。東京音楽大学(音楽文化教育専攻・指揮専攻)、東邦大学(医学部・看護学部)非常勤講師。



沼田里衣

知的障害者を含む人々を対象とした即興音楽ワークショップや公演を行う傍ら、技術や価値観の差異を超えた音楽作りについて研究を行う。2005~2017年「音遊びの会」代表、2014年より「おとあそび工房」主宰。論文に『動いている音楽』—社会的課題と結びついた即興音楽の美的戦略に関する一考察—(JASMIMジャーナル vol.5)、共著に『障がいのある人の創作活動—実践の現場から』(あいり出版、2016年)等。博士(学術)。日本音楽療法学会認定音楽療法士。大阪市立大学文学研究科准教授。



即興からめーる団(赤羽美希+正木恵子)

音楽家・赤羽美希と打楽器奏者・正木恵子による音楽ユニット。2006年より活動を開始。うたづくり・音あそび、楽器を使った音楽ワークショップを企画・実践するほか、コンサートホールやライブハウス、公共施設、学校等での演奏活動も行なっている。うたの住む家プロジェクト主宰。既存概念にとらわれない、自由で面白い作品づくりと、ワークショップに参加した人、その一人一人がいなければ成り立ち得ないような音楽づくりを目指している。
<http://improkaramer.blogspot.com>

赤羽美希

音楽家。奈良女子大学文学部卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科修了。演奏・作曲活動と並行して、コミュニティ音楽プロジェクト「うたの住む家プロジェクト」「ザウルスの音楽ワークショップ」を主宰するなど、多様な人との音楽創作ワークショップを企画・実施。現在は、教育・研究活動にも携わり、実践・研究・教育の幅広い分野で精力的に活動している。主な出版物に『たのしい楽器あそびと合奏の本』(ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス)等がある。聖学院大学非常勤講師。



正木恵子

打楽器奏者。愛知県名古屋市長井里高校音楽科を経て、日本大学芸術学部音楽学科打楽器専攻卒業。現在、フリーパーカッショニストとして打楽器やマリンバの演奏・指導に携わるほか、劇音楽の生演奏やコンテンポラリーダンスとの共演、即興演奏、音楽ワークショップの企画・ファシリテートなど幅広い音楽活動に取り組んでいる。音楽ユニット「即興からめーる団」、若手打楽器奏者3人組による打楽器アンサンブル「どってん博物館」、おもちゃ楽器バンド「mocca」メンバー。



鐘ヶ江織代

桐朋学園大学卒業(音楽学)。びわ湖ホール、京都コンサートホール、トーキョーワンダーサイト(現TOKAS)各事業課にてコンサートやワークショップの企画・制作、若手クリエイターの育成・支援事業等に携わる。その後、青山学院大学大学院社会学部情報学専攻前期課程IHコースにて質的研究を学び、2020年3月修了(学術修士)。東京大学「企画を創る～実践から学ぶ教養としてのアートマネジメント」ゲスト講師、音楽実験ユニット「パレイドリアン」の代表を務める他、コーディネーター、リサーチャーとしても独自の活動を展開している。



design: yamasin(g)